

放流効果調査事業（マコガレイ）

村松里美・鈴木亮・吉田雅範

目 的

第7次栽培漁業基本計画の技術開発対象種となっているマコガレイについて、放流技術の開発に取り組む。

材料と方法

陸奥湾系群の放流効果を調べるため、野辺地漁港に人工採苗した種苗を放流し、野辺地町漁協に水揚げされたマコガレイについて、体色異常や外部標識等の有無を確認した。

結果と考察

1. 放流効果

平成29年10月5日に野辺地町漁協に水揚げされたマコガレイ376尾の体色異常及び外部標識を確認したところ4尾が黒化魚で体色異常の割合は1.06%であった（表1）。ただし、平成21年度から種苗を放流していない三沢市漁協でも1.12%の体色異常魚が出現している¹⁾ため、本調査で得られた体色異常割合1.06%をそのまま放流効果とすることができない。平成29年度から鱭抜去した個体を放流しており、漁獲加入するのは平成30年度以降と考えられるため、鱭抜去魚の再捕状況を見て放流効果を考察したい。なお、本調査ではアンカータグ、ダーツタグ等が装着された個体及び鱭抜去された個体は確認されなかった。

表1 平成29年度マコガレイの放流効果調査結果

調査月日	調査場所	測定尾数 (尾)	体色異常 (尾)	割合 (%)	全長(cm)		
					平均	最小	最大
H29.10.5	野辺地漁協	376	4	1.06	32	27	38

2. 種苗放流

1回目の生産（生産回次1）では稚魚18.2万尾を陸上水槽で中間育成し、育成した稚魚16.3万尾を3月9日～6月6日に野辺地漁港に放流した。2回目の生産（生産回次2）では稚魚2万尾を陸上水槽で中間育成し、育成した稚魚1.9万尾を3月9日に野辺地漁港に放流した（表2）。

野辺地地先には平成24年度から種苗を放流しており^{1) 2) 3) 4) 5)}、年間の放流尾数は4,500尾～182,000尾であった（表3）。

表 2 平成 29 年度マコガレイの放流結果

生産 回次	中間育成開始状況			放流状況			
	開始日	平均全長 (mm)	尾数 (万尾)	放流日	全長 (mm)	放流尾数 (万尾)	標識
1	H29.3.1	15.5	18.2	H29.3.9	9.0-17.9	5.8	なし
				H29.3.30	20.7-21.5	5.9	なし
				H29.3.30	-	(850尾)*	腹鰭除去
				H29.4.27	-	2.2	なし
				H29.6.6	35.9	2	なし
					45.2	0.4 (3,673尾)	なし
2	H29.2.28	16.0	2.0	H29.3.9	17.2	1.9	なし
合計			20.2			18.2	

*1歳魚

表 3 これまでのマコガレイの放流結果

年度	放流月日	平均全長 (mm)	放流尾数 (尾)	うち 標識尾数	標識種類	体色異常 出現率	形態異常 出現率
H24	5/26~9/26	35.5~93.0	17,850	700	アンカー	11.1%	-
H25	5/29~10/18	49.0~126.7	12,000	1,315	アンカー・チューブ・ダート	14.2%	-
H26	10/19~10/31	94.6~120.4	4,500	3,600	アンカー・ダート	13.3%	6.7%
H27	8/9~8/18	70.0~80.0	6,500	-	なし	7.5%	-
H28	4/22~10/12	16~63	16,000	-	なし	-	-
H29	3/9~6/6	9~45.2	182,000	4,523*	腹鰭除去	-	-

*うち850尾は1歳魚

文 献

- 1) 村松里美・鈴木亮・吉田雅範 (2017) 栽培漁業技術開発事業 (マコガレイ), 青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告, 平成 28 年度, 440-441.
- 2) 高橋進吾・鈴木亮・菊谷尚久・尾鷲政幸 (2013) 栽培漁業技術開発事業 (マコガレイ), 青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告, 平成 24 年度, 443-447.
- 3) 高橋進吾・鈴木亮・菊谷尚久 (2014) 栽培漁業技術開発事業 (マコガレイ), 青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告, 平成 25 年度, 406-410.
- 4) 高橋進吾・鈴木亮・菊谷尚久 (2015) 栽培漁業技術開発事業 (マコガレイ), 青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告, 平成 26 年度, 434-438.
- 5) 高橋進吾・鈴木亮 (2016) 栽培漁業技術開発事業 (マコガレイ), 青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告, 平成 27 年度, 481-484.